



平成30年 3月号

題字 2年 上西 将真



喜びと感謝にあふれた卒業式 !! 3月1日(木)

前夜の春の嵐で開式が2時間遅れた卒業式ですが、在校生・職員・保護者・来賓の方々からの祝福を受けて、3年生7名が分校を巣立ちました。

庄田卓爾校長は卒業証書を一人ずつ授与し、式辞の中で「校歌に『嵐すさぶとも明日を信じて』とあるが、『未来、つまり理想を信じるからこそ、今の困難に立ち向かえる』と歌詞は教えている。皆さんには高校生活で培った力を糧に自らの将来を切り開いてほしい」と述べられました。またピョンチャン五輪で活躍したスピードスケートの高木美帆選手を紹介し、「前回大会に出場できない失意のどん底から、外国人選手と対等に戦うという目標に向けて大変な努力を重ね、快挙を成し遂げた、その姿を手本として各自の『夢』を実現してほしい」とエールを送られました。さらに、来賓の方々からのお祝いの言葉、在校生代表・谷口さんの送辞が続き、それに応えて井谷湖々音さんが答

辞を述べました。分校での多くの思い出の中で「生徒・先生が一緒になって、皆で作り皆で楽しむという分校ならではの光景が絆を深めた」と語り、在校生には「一人ひとりが意見を出し合い、よりよい学校にしてほしい。少人数だからこそ一人ひとりの力が必要だ」と訴え、そして自分たちを支えてくれた家族への感謝で結びました。最後の卒業生退場では、大きな拍手の中を全員が堂々と歩いていきました。

卒業式に先だって行われた「送る会」は、終始笑顔の会となりました。2年生が恩師からの手紙の朗読を行い、全員でビデオレターを見て、在校生から花束を贈呈し、別れを惜しみました。また、サプライズ企画として2年生は朝から3年の教室に絵を描いて、卒業をお祝いしました。



あらぎ米「収穫祭」に参加 2月15日(木)

あらぎ島で協力して田植えや稲刈りを行った、八幡小学校の3・4年生から「収穫祭」の招待を受け、清水分校の1年生が参加しました。小学生がスライド等を使って米作りの発表をした後、今年収穫したあらぎ米のおにぎりやみそ汁が出され、楽しくおしゃべりしながら全員でおいしくいただきました。

ユース短歌「県教育委員会賞」受賞 !!

県歌人クラブ「ユース短歌」は、県内の児童生徒 3,709 名から 6,605 点の応募があり、清水分校1年・林 蒼河くんが高校の部・県教育委員会賞をいただきました。これは全体1位の「県知事賞」に続く賞です。

『自転車を走らせ下る夏の山勢い増してついには風に』



4月の行事予定

4/4 離任式

4/9 (午前) 着任式・始業式 (午後) 入学式

4/10 一斉テスト